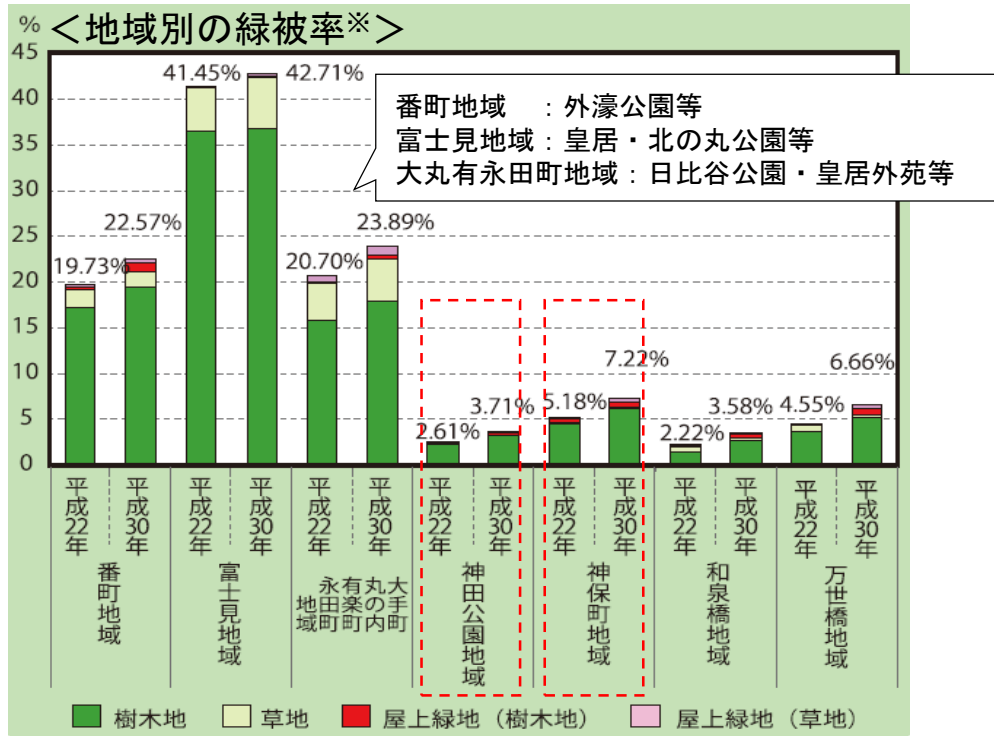


## ②緑・水辺・広場

### 【地域別の緑被※の状況】

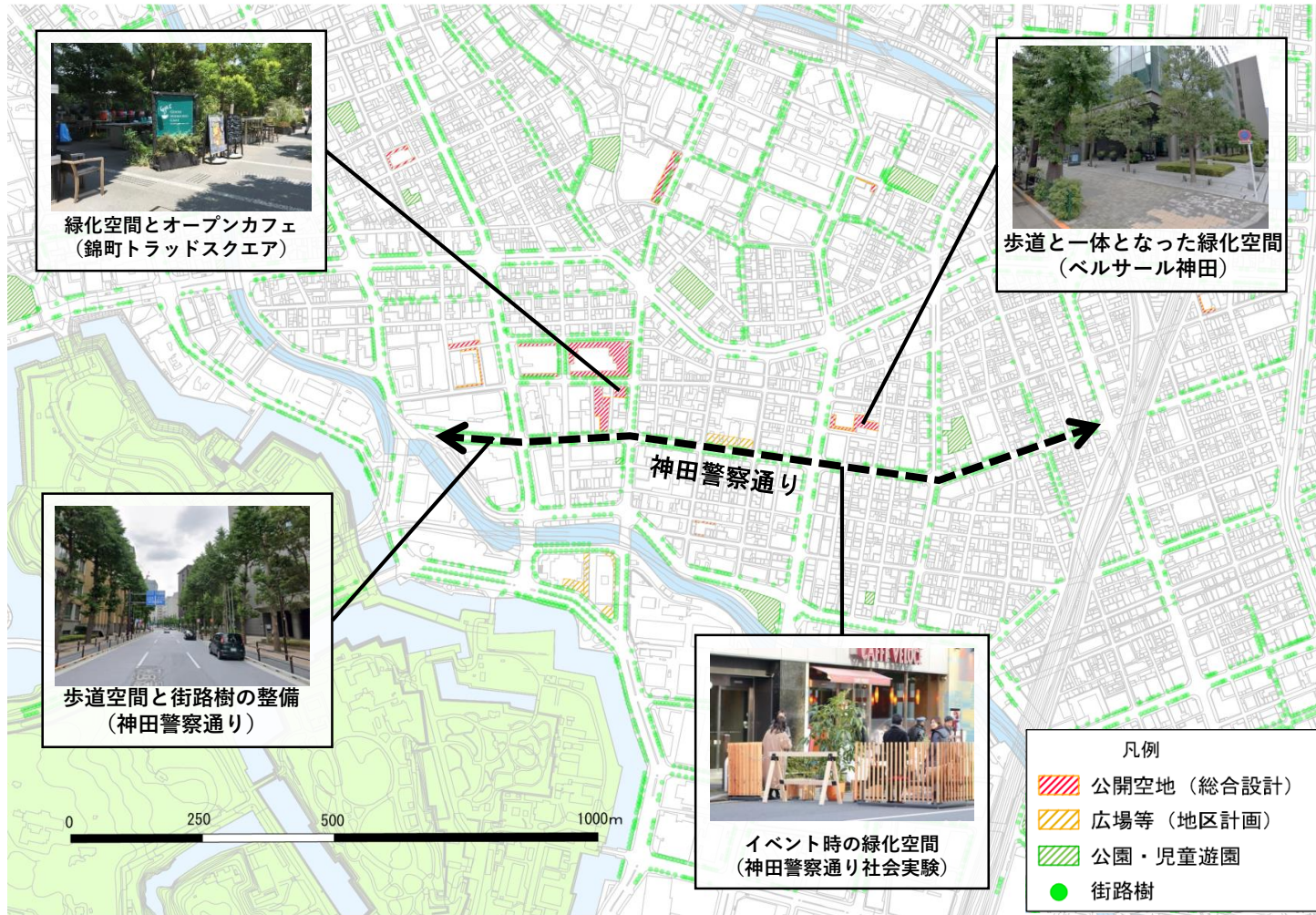
- ・ 緑が少なく、広場・公園等のオープンスペースが不足
- ・ 神田公園地域の緑被率は3.71%
- ・ 神保町地域の緑被率は7.22%

※緑被とは、上空から見て、地上を被っている緑(樹木や草)のことで、緑被率は、地域面積に対する緑被面積の割合です。



出典: 千代田区緑の実態調査及び熱分布調査(H30)

### ＜公開空地・広場・公園・街路樹配置図＞



### ＜参考：東京のみどり率※の変遷＞

範囲	H15	H22	H25	H30
東京都全域	52.4%	-	50.5%	-
東京都区部	20.0%	-	19.8%	-
千代田区	-	28.7%	-	31.2%
神田公園地域	-	-	-	4.9%
神保町地域	-	-	-	9.0%

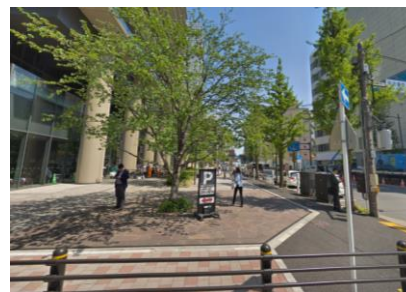
出典: 都市づくり白書(H30)  
 千代田区緑の実態調査及び熱分布調査(H30)

※みどり率とは、みどりが地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が地域全体に占める割合です。

### 【現状のまとめ】

- ・ この8年間緑地率は増加傾向にあるが、他地域と比較すると低い状態
- ・ 総合設計による公開空地や、地区計画による広場の整備が進む
- ・ 水辺空間は活用されていない

#### 開発による緑の創出



#### 水辺を感じ辛い空間



#### 開放感の乏しい都市空間

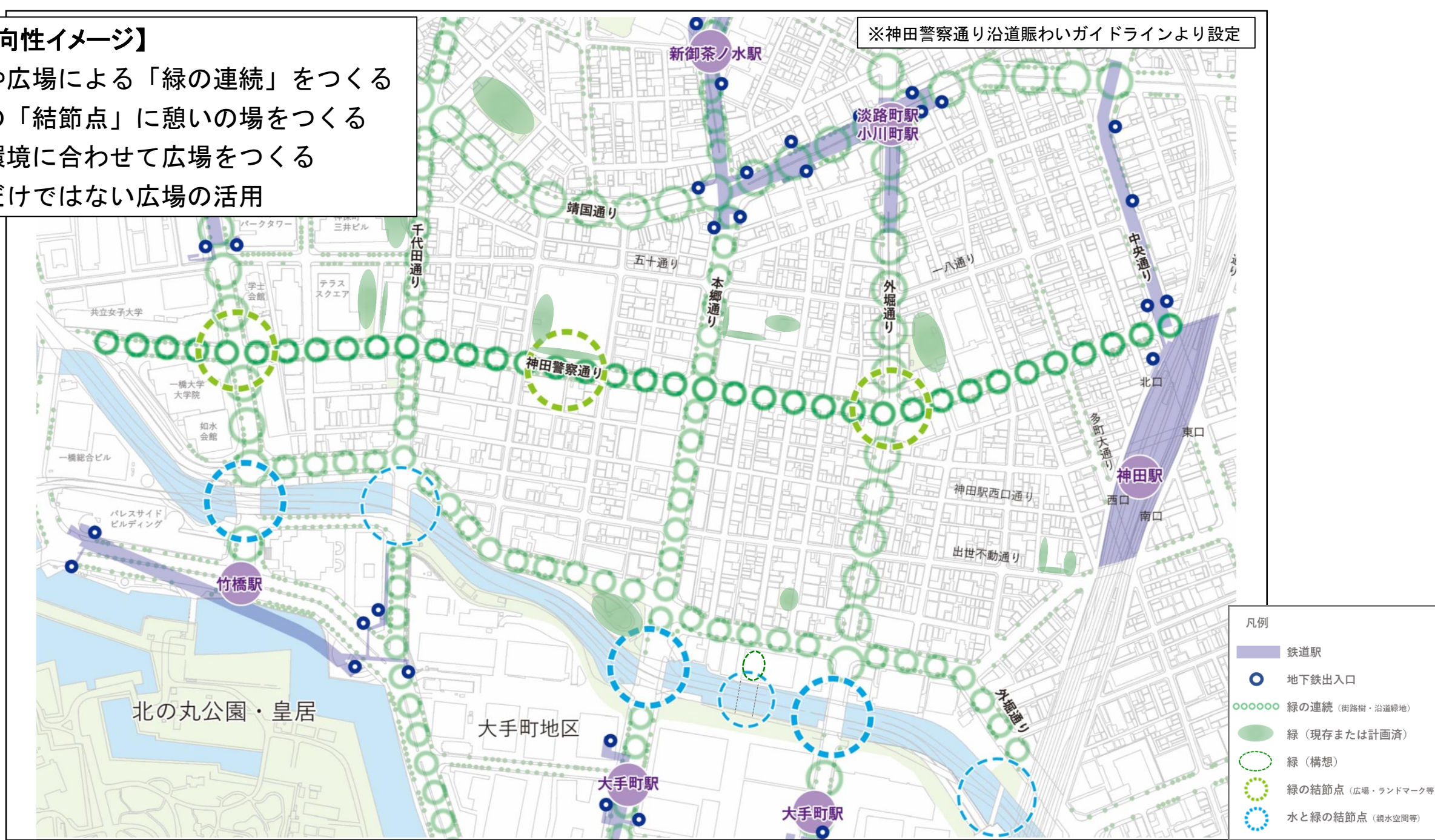




## 【今後の方向性イメージ】

- ・ 街路樹や広場による「緑の連続」をつくる
- ・ 緑や水の「結節点」に憩いの場をつくる
- ・ 地区の環境に合わせて広場をつくる
- ・ 平常時だけではない広場の活用

※神田警察通り沿道賑わいガイドラインより設定



## 「緑の連続」

- ・ ゆとりのある歩道では街路樹や植栽帯に加え、民間開発と連続した緑を整備
- ・ 整備が困難な沿道ではプランターや壁面緑化を推進



民間開発と連携した緑



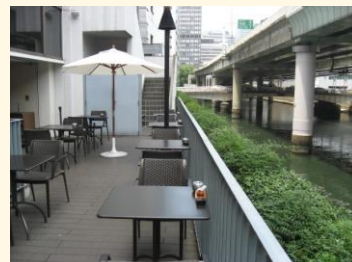
プランターによる植栽

## 「緑と水の結節点」

- ・ 「緑の連続」の交差点はランドマークとなる緑化空間を整備
- ・ 「緑の連続」と日本橋川が交差する点は、「水と緑の結節点」として親水性の高いスペースを整備



まちかどの滞留空間と緑化空間  
(一橋大学千代田キャンパス)



親水性のあるスペース

## 「広場・水辺の活用」

- ・ 民間ノウハウを取り入れたオープンスペース整備・維持管理
- ・ 災害時の利用を想定した整備



開発により整備された  
オープンスペース



災害時を想定した広場利用